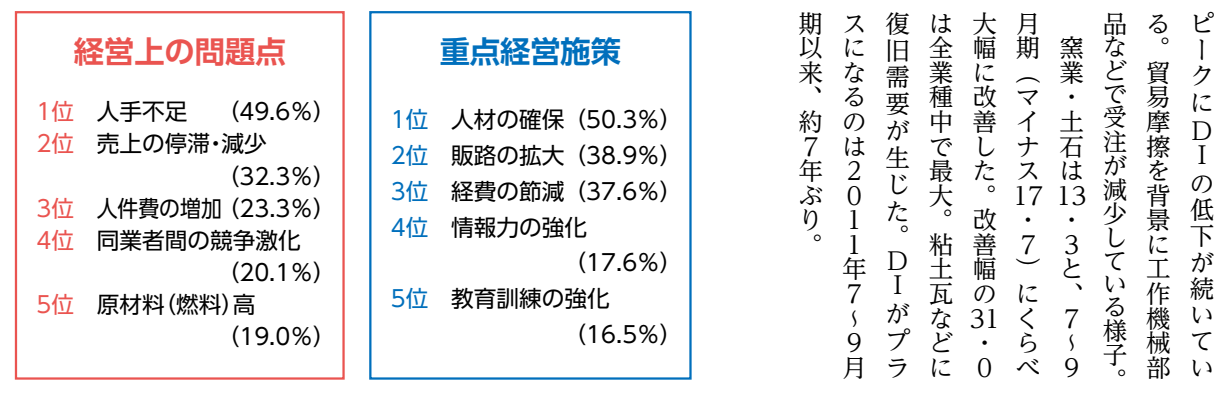
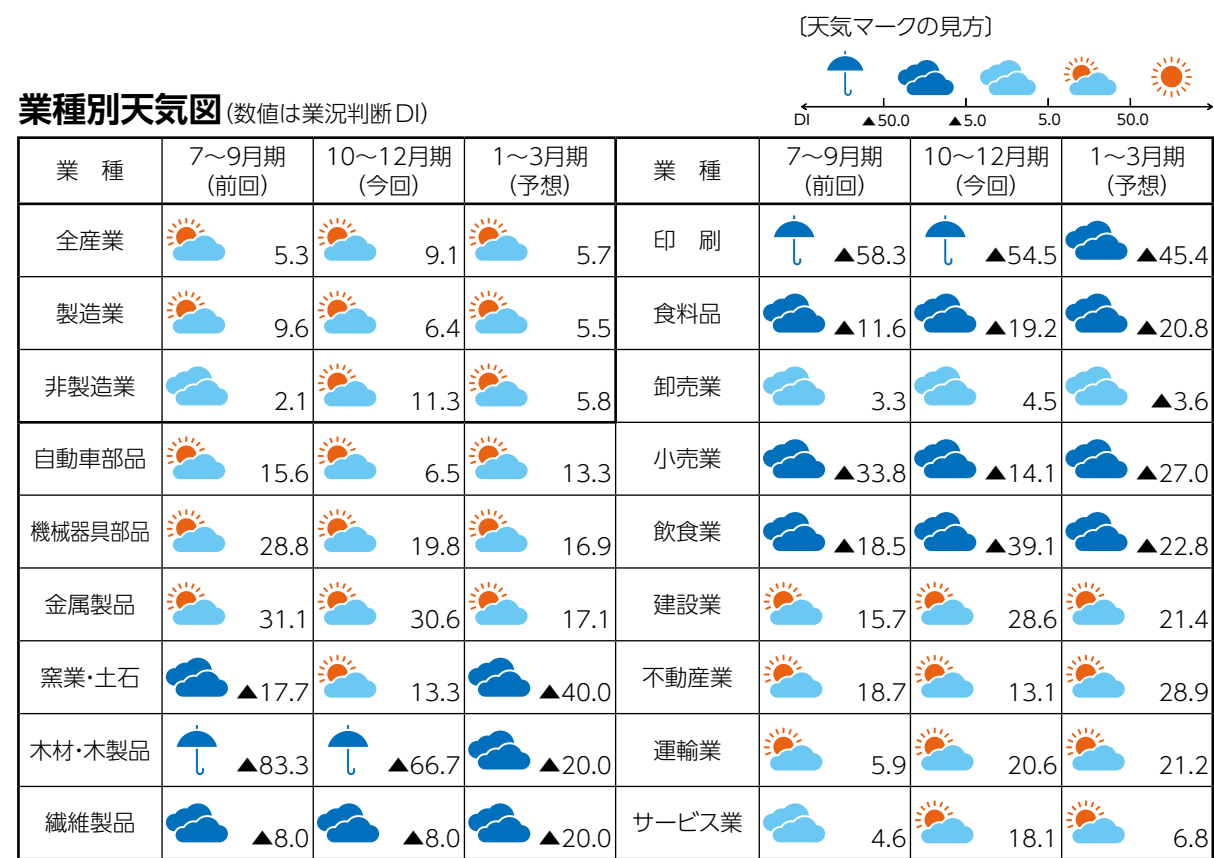




――非製造業――

卸売業は4・5。1・2ポイントの小幅改善にとどまったが、内訳をみると、おもに食料・飲料を扱う企業が悪化する一方、建材を手がける企業で大幅な改善がみられた。何度も襲来した台風で農作物が値上がりしたり、復旧工事が増えたりした影響が出たもよう。

小売業は19・7ポイント改善してマイナス14・1。3四半期ぶりの改善となったが、依然として水面下にあって冴えない状況。

飲食業はマイナス39・1。前回調査に比べ大幅に悪化した。食材仕入価格の上昇が収益を圧迫した。人手不足は深刻で「繁忙期に人手が足りず、売上機会を失っていることが痛手」と嘆く企業もあった。

建設業は12・9ポイント改善し、28・6となった。水準としては5年ぶりの高さ。一部で資材価格が上昇しているが、復旧工事などの需要で受注量や施工高が増加、マインド好転に寄与した。

不動産業は13・1。前回調査(18・7)より悪化した形となっ

景況感改善 2期連続

非製造業災害被害の復旧需要も

中小企業景気動向調査(10～12月期)

当金庫が行った2018年10～12月期の「中小企業景気動向調査」の結果がまとまった。

調査期間は11月21日から12月6日。調査対象はお取引先企業1001社。回答数は907社。(回答率90・6パーセント)

景況感2期連続の改善

企業の景況感を表す業況判断DI(業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値)は、全産業で9・1となり、7～9月期の5・3から3・8ポイント改善した。改善は2四半期連続。

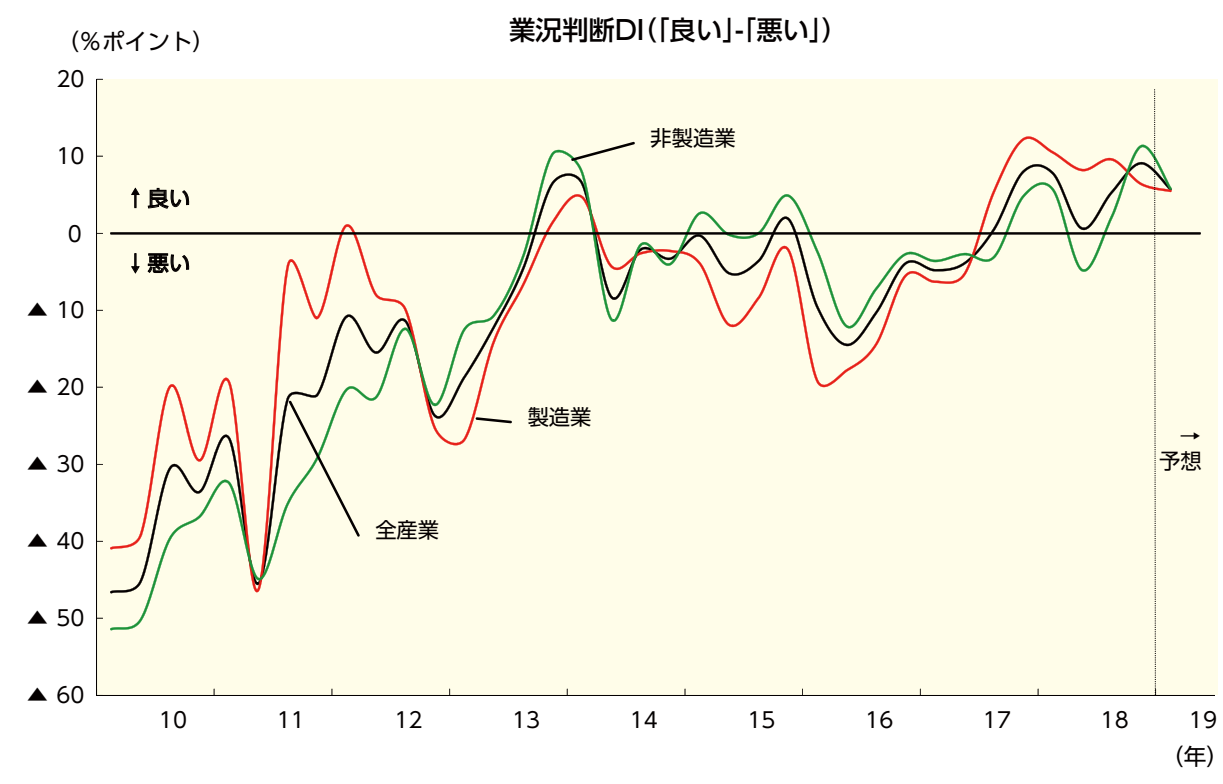
製造業は3・2ポイント悪化して6・4。窯業・土石、木材・木製品などが改善する一方、自動車部品、機械器具部品、食料品などが悪化した。

――製造業――

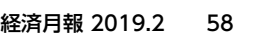
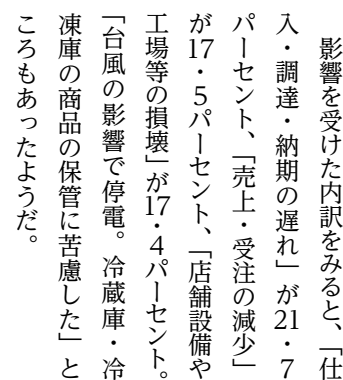
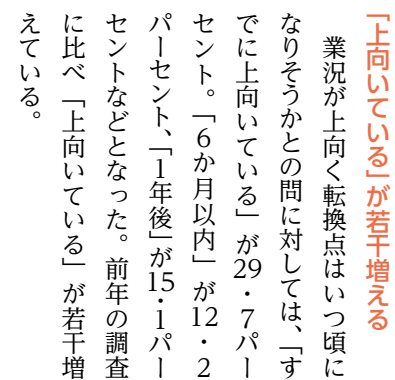
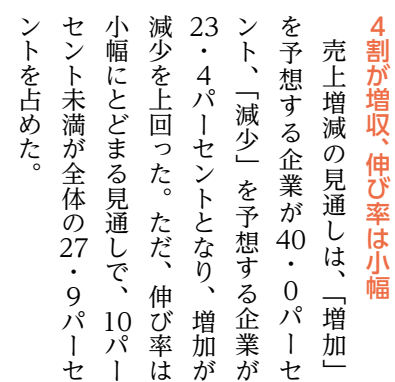
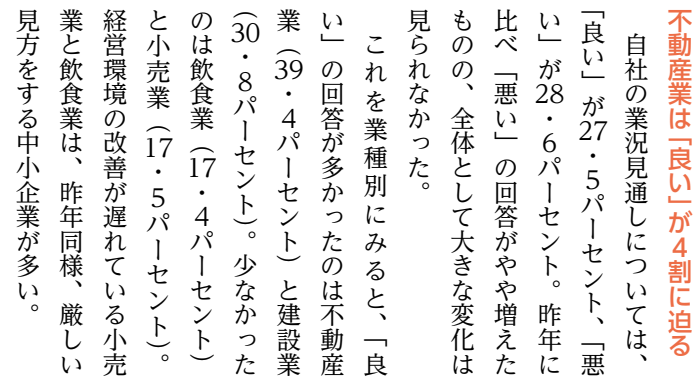
自動車部品のDIは6・5。前回(15・6)にくらべ悪化した。米中の貿易摩擦で中国経済が減速していることに加え、北米向け完成車輸出が伸び悩んだことが響いたとみられる。「貿易競争の影響がどの程度まで広がるかを注視する」といった声が聞かれた。

機械器具部品は19・8となり、9・0ポイント低下した。2017年10～12月期の41・7を

非製造業は大幅に改善し、11・3となった。DIの水準としては、2013年10～12月期(10・3)以来の高さ。また、バブル経済が崩壊した平成3年以降で最も高くなった。台風被害などの復興・復旧需要が発生し、その関連業種が牽引した。



最近の経済動向



- ・ 米中貿易摩擦や日米貿易問題の影響が出はじめている。 【自動車部品】
- ・ 10月までの生産是好調。11月から量が落ちているが、生産調整（在庫調整）が3か月ぐらい続き、その後は増産に転じるとみている。 【自動車部品】
- ・ ものづくりに対し、真摯に向き合う若者が少ないような気がする。 【金属熱処理加工】
- ・ 非鉄金属相場の低迷に困惑している。 【アルミ合金製造】

- ・ 廃業する茶道の先生が目立ち、茶道具が供給過多。価格下落が止まらない。ほとんどの美術品で同じ傾向となっている。 [茶道具の卸]

- ・ 東京オリンピックに向けて、高張力ボルトの需要が増加。メーカーが、大手卸を優先しているようで、中小卸への対応が遅れている。**[機械工具卸]**

- ・ 人手不足で受注機会を逃している。建設を専攻した人材が、自動車関連企業に流れているありさま。

- 中国へのリサイクル輸出が停止し、廃棄物が国内に滞留している。廃棄物処理の需要が増加し、売上も伸びたが、破碎工場の拡張工事の遅れが響き、仕事を断っている状態。

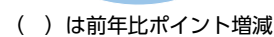
たが、不動産需要は引き続き堅調。増収増益の基調は崩れていない。運輸業は20・6となり、大幅に改善した。極端なドライバー不足を背景に運賃価格が上昇している。こうしたなか、「顧客からの増便要請に応えられるだけのキヤパがあれば、業況が良くなるのだ

が」との声もあった。

サービズ業は18・1となり、7
〜9月期（4・6）にくらべ改善
した。修理・メンテナンスなどの
法人向けサービズが好調で、景況
感を押し上げた恰好。DIの水
準は、平成2年10〜12月期（23・
0）以来、じつに16年ぶりの高さ。

悲観的な見方が増加

日本の景気をどのように見通しているかについては、「良い」が25・7パーセント、「普通」が45・7パーセント、「悪い」が



28・6パーセントとなった。前年同時期の調査に比べ「良い」が4・9ポイント減少、「悪い」が7・8ポイント増加した。「悪い」が「良い」を上まわるのは2年ぶり。

10月に予定されている消費税の引き上げや、米中貿易摩擦の行方に注目が集まっている。

《特別調査「2019年の経営見通し」》

国内景気に悲観的な見方

自社の業況見通し増収は4割